

# ダンボールコンポストの作り方

ダンボール箱に生ごみを入れて堆肥にするダンボールコンポストの作り方について紹介します

◇少ない費用で、冬でも室内で堆肥作りが可能です。ぜひお試しください。

## ●用意するもの

### ○ダンボール箱（容器）

- ・みかん箱などの厚めの箱を一箱  
（縦 30cm×横 45cm×高さ 30cm程度）  
※薄い箱であれば二重にすると良いです

### ○基材（それぞれ園芸店、ホームセンターで購入できます）

- ・ピートモス（土壌改良剤、20ℓ入り袋）
- ・くんたん（土壌改良剤、15ℓ入り袋）

### ○箱の底に敷く下敷き用のダンボール（底の強度を上げる）

### ○木片4つまたは5cm巾のガムテープなどの芯5つ （風通しをよくする）

### ○その他

- ・新聞紙（床の汚れ防止）
- ・シャベル（ダンボール内をかき混ぜるため）
- ・温度計（生ごみ分解温度の確認用）
- ・はかり（投入する生ごみの計量用・・・自宅にあれば）

## ●作り方

- ①ダンボール箱（容器）の底から基材が出ないように隙間をガムテープでふさぎます。（側面の取っ手の穴もふさぐ。）
- ②箱の底に中から下敷き用のダンボールを1枚敷き、二重にします。
- ③基材のピートモスとくんたんとを3対2（15ℓと10ℓ）の割合でダンボール箱の中に入れ、よくかき混ぜます。
- ④温度が15～20℃位の場所で、箱の足用に使う木片4つ（またはガムテープの芯5つ）の上にダンボール箱を置きます。
- ⑤生ごみ（水気の多い物は三角コーナー等で水切りする）を一日に約500g程度入れます。
- ⑥生ごみを入れるたびに（生ごみを入れない日も）全体をよくかき混ぜ空気が入るようにします。
- ⑦温度計を基材の中心部に差し、温度変化で微生物の働きを確認します。
- ⑧生ごみを入れたり、かき混ぜる時以外はふたをし、バスタオル等をかけます。（保温、防虫、防臭のため）
- ⑨ダンボール箱から出して同量の土と混ぜて約一ヶ月寝かすと堆肥の出来上がりです。



ダンボール箱  
ピートモス  
くんたん  
下敷き用ダンボール  
新聞紙  
シャベル  
はかり



木片4つまたはガムテープ等の芯5つ



温度計



側面の取っ手の穴を  
ふさぎ、床面から約  
5cm離して置く



水気の多い生ごみは  
水切りする



生ごみを入れるたび  
にかき混ぜる



温度計を基材の  
中心部に差し



生ごみを入れない日  
もかき混ぜる



バスタオル等で温度  
を保つ



ダンボールから出して  
同量の土を混ぜる



混ぜて約一ヶ月寝かすと  
堆肥の完成



ダンボールコンポスト使用による  
堆肥で出来た花

# ダンボールコンポストのポイント①

## 《 発酵分解について 》

- ・発酵分解はすぐには始まりません。1～2 週間の間に生ごみを入れてかき混ぜると温度も 30℃（置く場所やお住まいの気温によって多少異なる）を超えるようになり、生ごみの種類や量により 60℃を超えることもあります。バスタオルをかけると温度が保たれます。
- ・生ごみを入れなくても、1 日 1 回はかき混ぜます。
- ・ダンボールの全面から分解による水分が発生するので、ビニール袋などで覆わずに通気を良くします。
- ・生ごみは小さくするほど発酵分解が早いです。



生ごみは小さくするほど良い

分解しやすいもの	分解しづらいもの	分解されないもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜くず</li> <li>・りんごやみかんの皮</li> <li>・卵のから</li> <li>・魚の骨や内臓（少量）</li> <li>・茶がら</li> <li>・肉類</li> <li>・食べ残し（味が濃いので一旦ザルに移しお湯をかけ水切りをする）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥や豚などの骨</li> <li>・シジミやアサリなどの貝殻</li> <li>・トウモロコシの芯</li> <li>・玉ねぎの皮</li> <li>・塩辛や塩鮭、漬物など塩分の多いもの</li> <li>・西瓜の皮など水分の多いもの（少しずつ入れる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腐敗したもの</li> <li>・ガラスの破片</li> <li>・箸やつまようじ</li> <li>・スポンジ</li> <li>・ラップやアルミホイル</li> <li>・吸殻</li> <li>・金属類 など</li> </ul>

## 《 温度について 》

- ・温度が上がらない場合は、使用済みてんぷら油などの廃食用油（200cc以下。但し頻繁に入れられないこと）、天かす、米ぬかなどを入れると発酵分解は早まりますが、油類は入れすぎると臭いが出ます。
- ・冬など気温が低い時は、厚手のペットボトルに 70℃程度のお湯を（やけどをしないように）入れて、ダンボールの外側四隅に置き、上に毛布をかけてダンボールの中の温度が保たれます。



廃食用油、天かすなどで温度を上げる。



入れすぎないように。



やけどをしないようにペットボトルにお湯を入れる。



バスタオルか毛布をかける

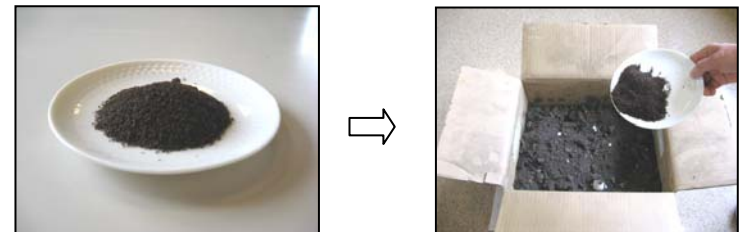
## ダンボールコンポストのポイント②

### 《 臭いについて 》

- ・ふたを開けるとカビや土のにおい及び発酵臭が多少あります。
- ・生ごみが多かったり、よくかき混ぜないと水分の多いかたまりができて悪臭が出る場合があります。
- ・一度に多量の魚やイカの内臓などを入れると強いアンモニア臭が出る場合があります。この場合は、基材を2~3割加えてよくかき混ぜると臭いは弱まります。臭いが気になる場合は外側のダンボール箱を二重にしてみます。
- ・防腐剤の使われていない柑橘類の皮やコーヒーかす(少量)で臭いが多少和らぎます。



生ごみを入れても入れなくてもかき混ぜることが悪臭を出さないポイント。



少量のコーヒーかすを入れると臭いが多少和らぐ。

### 《 虫、カビなどについて 》

- ・暖かくなると小バエが発生しやすくなるので、必ずふたをし、バスタオルか新聞紙をかけます。
- ・入れる生ごみはためずに水をよく切ってから箱に入れます。
- ・生ごみを4~5日以上入れずにかき混ぜないでおくとダニが発生することがあります。使用済みてんぷら油などの廃食油、天かす、米ぬかなどを入れてよくかき混ぜると温度が上がり、ダニが発生しにくく、またハエの幼虫がいても死んでしまいます。
- ・カビなどのアレルギーのある方は室外で使ってください。ただし、温度差のない暖かい所がよいです。



小バエが発生しないようにバスタオルなどをかける。



ダニの発生を防ぐために、廃食油や天かすなどを入れて温度を上げる。



ただし、入れ過ぎると臭いのもとになるので、気をつけること。

### 《 使用期間について 》

- ・一日の生ごみ投入量が平均500gだと3ヶ月くらいは生ごみを処理できます。
- ・基材のかたまりが多くなり、べたついた状態になったら、生ごみを入れるのを止め、約一週間かき混ぜます。
- ・その後、同量の土と混ぜ、約1ヶ月寝かせてから堆肥として使用します。



一日平均500gが適量



ダンボールから出したもの(左側)と同量の土(右側)を混ぜる



混ぜて約一ヶ月寝かすと堆肥の完成